

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第6週（2月7日～2月13日）

## 今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

### 定点把握感染症

「感染性胃腸炎 更に減少」

第6週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は648例であり、前週比34.1%減であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しん、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ2.63、0.18、0.18、0.13、0.09である。

感染性胃腸炎は前週比35%減の519例で、南河内3.94、中河内3.75、三島3.19、泉州2.85、堺市2.79であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は20%減の35例で、泉州0.50、中河内0.40、大阪市南部0.26である。

咽頭結膜熱は8%増の26例で、大阪市北部0.57、大阪市東部0.21、豊能0.17であった。

RSウイルス感染症は63%減の18例で、南河内0.25、北河内0.19、堺市0.16である。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に対する休園・休校により、その他の感染症の発生が抑制されている可能性がある。

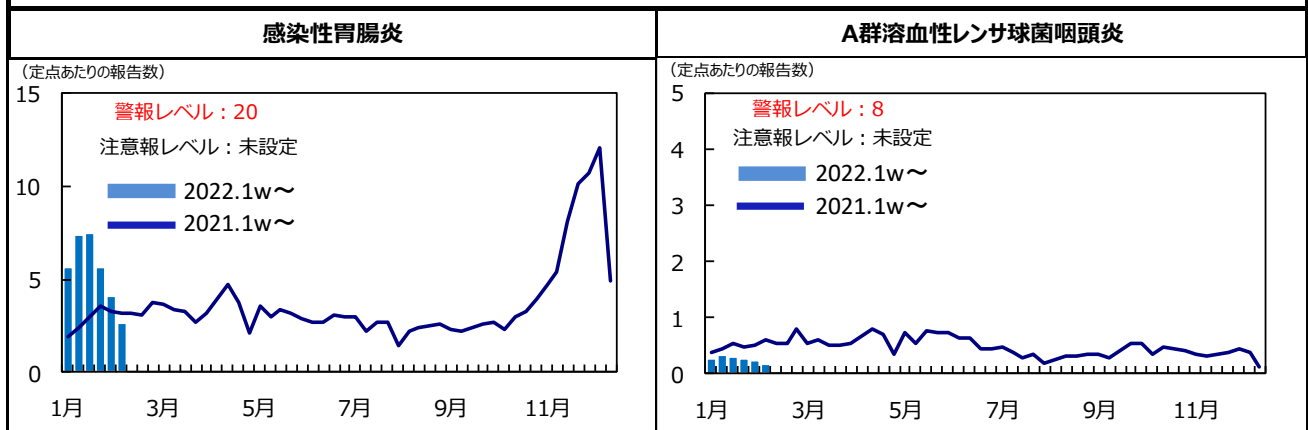


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第6週2月7日～2月13日）

第6週の順位	第5週の順位	感染症	2022年 第6週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第6週の 定点あたり 報告数	2022年第6週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.63	35%減	3.14	2歳_18%
2	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.18	20%減	0.59	4歳 5歳10-14歳_17%
2	4	突発性発しん	0.18	13%増	0.34	1歳_60%
4	5	咽頭結膜熱	0.13	8%増	0.15	1歳_50%
5	2	RSウイルス感染症	0.09	63%減	0.54	1歳未満_44%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	20%減	0.01	10-14歳(2例)_50%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

## 第6週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

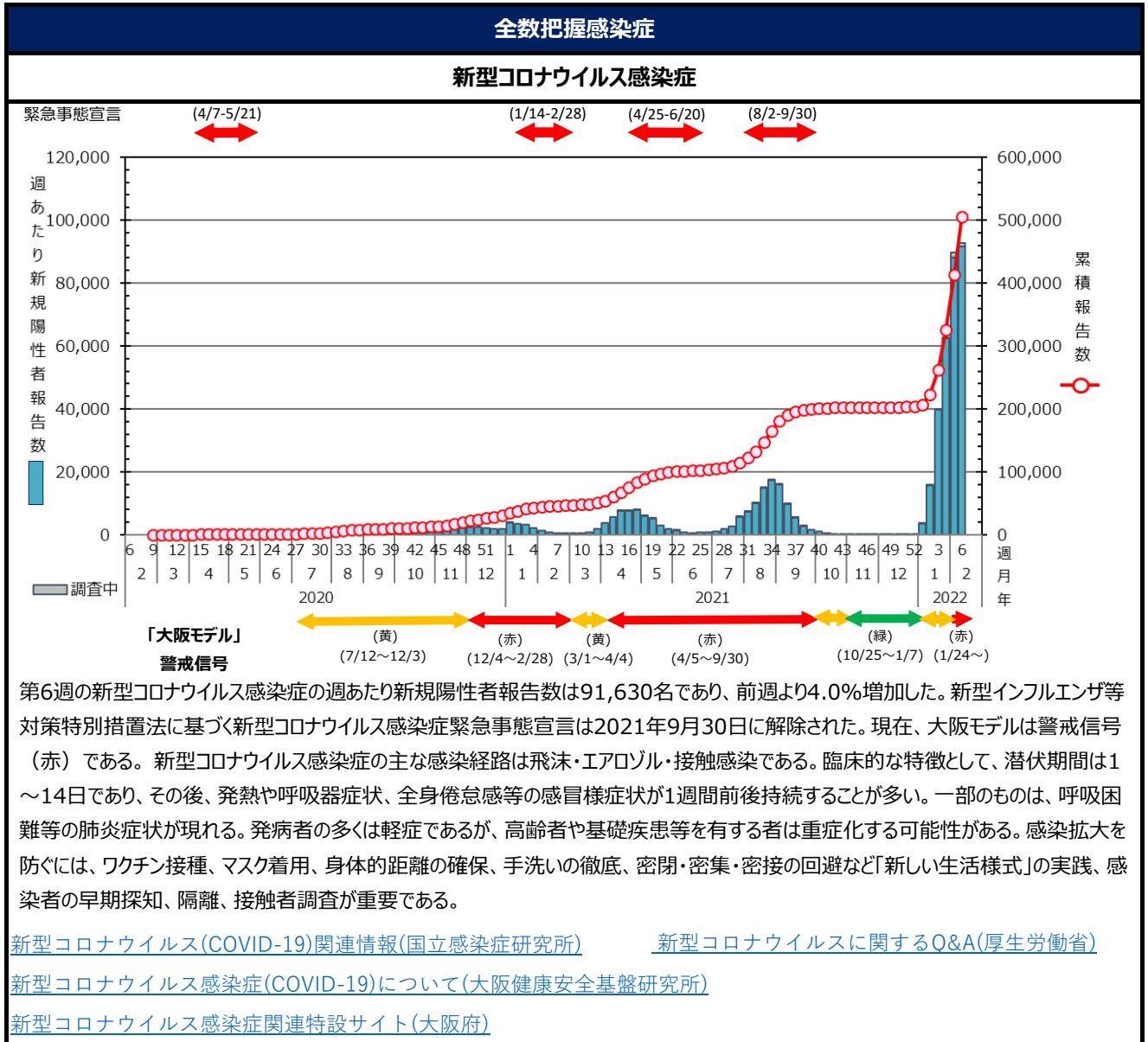


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第6週2月7日～2月13日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1								1	1
5類感染症	アメーバ赤痢	1								1	6
	侵袭性インフルエンザ菌感染症	1	1								1
	梅毒	5			1		1			3	89
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	91,630	2020年1月以降累計 504,832								
結核 (2021年12月分)	結核 新登録患者数：104名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 33名) (府内累積報告数 1,178名、内 肺・喀痰塗抹陽性 449名)									

(2022年2月15日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。